

REPORT



全国学力調査結果

4月に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果がまとまりましたので、お知らせします。

担当 学校教育課

学力調査結果

平均正答率の結果は次のとおりです。

	教科	平成31年度(令和元年度)		
		摂津市	大阪府	全国
小学校	国語	56	60	63.8
	算数	63	66	66.6
中学校	国語	70	70	72.8
	数学	53	58	59.8
	英語	53	56	56.0

本市では、小学校10校の6年生686人と中学校5校の3年生668人が参加しました。

調査結果の詳細は、市ホームページ(学校教育課)に掲載しています。

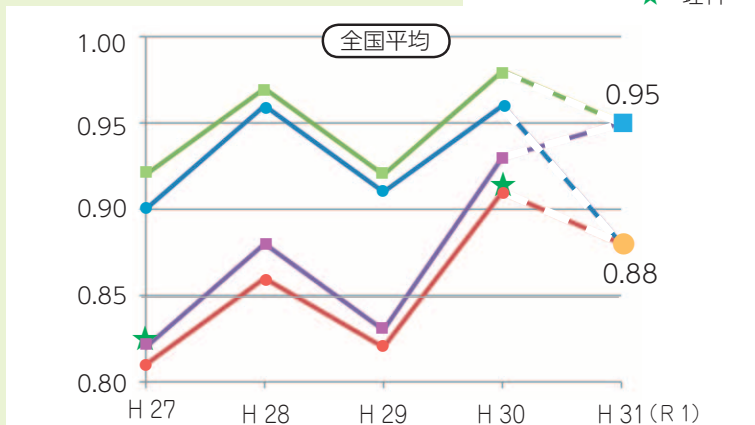
5年間の推移(対全国平均比)

※全国平均の数値を1とした場合の摂津市の値です。

※本年度調査より、従来のA問題・B問題という区分を見直し、知識・活用を一体的に問う調査問題に変更されました。そのため、昨年度のA・B区分の結果平均と比較しています。

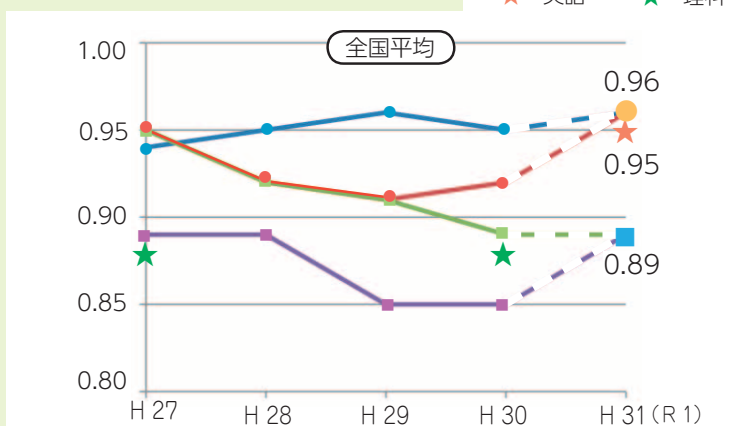
●小学校

国語は、全国との差が広がり、課題は見られるものの、過去5年間でゆるやかに上昇が見られる。



●中学校

中学校の対全国比は、国語は改善が見られ、数学でやや改善が見られる結果となった。



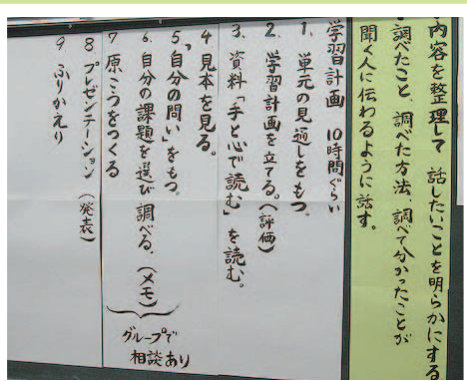


学力向上のための取り組み

市では、学力向上のため、さまざまな取り組みを行っています。その中でも、実際に学力の向上が見られた小中学校の取り組みについて紹介します。

学習計画を生徒と共有

児童と学習計画を共有し、授業でつきたい力やめあて（目標）などを明示することで、児童に学習の見通しをもたせた授業づくりを行います。



ICT機器を活用



タブレットPCやプロジェクターなどのICT機器を効果的に活用し、わかりやすい授業や学習意欲の向上を意識した授業づくりを行います。

生徒の生活姿勢を評価

学習状況だけでなく、学校生活全般に焦点を当て、当たり前前（当たり前）に取り組む児童生徒を認めることで自己有用感を高める取り組みを行います。



学校間での研究授業



中学校区内の学校間で研究授業および公開授業を相互に参加し合い、児童生徒につきたい力や学力向上の取り組みを共有し、小中学校での9年間を見据えた学力向上の取り組みを行います。

以下は小学6年生の「算数」で出題された問題の一部です。

単に、計算をしたり、正しい選択肢を選んだりするのではなく、文章を読み進めて考え解く力、そして、答えを導き出した自らの考えや過程を説明する力が問われています。

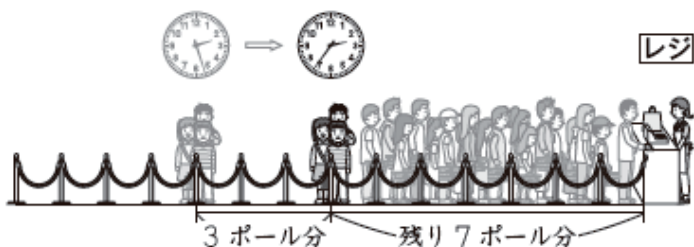
前問までの流れ

はるとさんは、午後3時までに限定商品を買うために、列に並んでいます。レジまでは等間隔に14ポールがありました。

4ポール進むのに8分かかり、午後3時までは残り33分あったので、3時までに間に合う予定でした。しかし、左記の問いのように条件が変わってしまいました。

ところが、レジにいる店員さんが減ってしまいました。それからは、3ポール分進むのに9分かかり、残り7ポール分になりました。午後3時までは、残り24分間です。

そこで、はるとさんたちは、24分間以内にレジに着くことができるかどうかを、もう一度考えてみました。



3ポール分進むのに9分かかったことから、残り7ポール分も同じ進みぐあいでも進むとして考えます。

3ポール分進むのに9分かかかる進みぐあいでも進むとすると、残り7ポール分進むのにかかる時間は何分間ですか。

求め方を言葉や式を使って書きましょう。また、答えも書きましょう。

さらに、24分間以内にレジに着くことができるかどうかを、下の

1と2から選んで、その番号を書きましょう。

- 1 着くことができる。
- 2 着くことができない。

※全国学力・学習状況調査より一部抜粋

正答例

【求め方】

$9 \div 3 = 3$ で、1ポール分には3分かかります。残り7ポール分なので、 $3 \times 7 = 21$ で、21分かかります。

【答え】21分間

【番号】1（着くことができる。）

正答率

全国 62.6%

摂津市 57.8%

全国学力・学習状況調査の調査問題、正答例、解説資料は国立教育政策研究所ホームページより見ることができます。

全国学力調査 2019

検索

考える力を育てる

授業の実践

求められる学力をつけるための主体的・対話的で深い学びの実現に向けて

まず一人で考える

まずは文章を読んで感じたこと、問に対する自分なりの答えを一人で考えます。

対話により考えを深める

自分の意見をペアやグループなどで共有し、なぜそう考えたかなどを言葉で説明し、自分以外の人の考えを聞いて、ペアやグループごとに答えを発表します。

学びを深める

どの発表に共感したか、驚いたかなどを問うことで、「新しい発見や気づき」「新たに疑問に思うこと」をもとに考えを一層深めます。

